

NO **4111** レジメン名 **BV-mFOLFOX6**

病棟 患者番号 氏名	癌種	ステージ	PS	クール数	指示医師名
				~	
	年齢	身長	体重	体表面積	GFR(血清クレアチニン値)
	歳	cm	kg	m <sup>2</sup>	ml/min (mg/dl)

【適応がん種】Colon K	BV/I-LV/I-OHP/5-FU	CCr補正	GOT補正	T-Bil補正	【病状】 1 全て説明している 2 病名は説明しているが、詳しい病状については説明していない 3 未告知である 【治療】 1 抗癌剤による治療・予防と説明 2 抗癌剤とは言わず治療薬と説明 3 抗癌剤とは言わず予防薬と説明 4 薬に関しては説明していない 平成20年7月1日 改訂
1・ペバシズマブ 5(~10) mg/kg DAY1		-	-	-	
2・レボホリナート 200 mg/m <sup>2</sup> DAY1		-	-	-	
3・オキサリプラチン 85 mg/m <sup>2</sup> DAY1		Ccr60-40-20(50-35-25%)			
4・フルオウラシル Bolus 400 mg/m <sup>2</sup> DAY1		30~	-	禁5.1	
5・フルオウラシル 持続 2400 mg/m <sup>2</sup> DAY1		30~	-	禁5.1	
		WBC基準	HGB基準	PLT基準	
		3000	9	100000	
		T-Bil	Scr	GOT/GPT/ALP	
		施設基準値の1.5倍以下		2.5倍以下	

NO	薬品1	規格	本数	薬品2(規格本数)	時間・投与法
①	パロノセトロンパック		1 本		全開で点滴
②	デキサメタゾン 6.6mg		1 本	★生食50mL	主・15分で点滴
③	ペバシズマブ( )mg	400mg	本	生食100mL	デキサメタゾン終了後～ 主・1時間30分で点滴
		100mg	本		
④	生食50mL		1 本		ペバシズマブ終了後～ 主・全開で投与
⑤	レボホリナート ( )mg	100mg	本	▲5%ブドウ糖250mL	生食フラッシュ後～ 側・2時間で点滴
		25mg	本		
⑥	オキサリプラチン( )mg	100mg	本	▲5%ブドウ糖250mL	生食フラッシュ後～ 主・2時間で点滴
		50mg	本		
⑦	フルオウラシル Bolus( )mg	1000mg	本	★5%ブドウ糖50mL	レボホリナート終了後～ 側・全開で投与
		250mg	本		
⑧	フルオウラシル 持続( )mg	1000mg	本	生食で全量120mLに 調整(2.5mL×46h)	フルオウラシル Bolus終了後～ 主・46時間で持続点滴 シユアヒューザーポンプ使用！！
		250mg	本		

- 【1. 原則禁忌】 ●脳転移患者(脳出血のおそれ)  
 【2. 投与前必須検査】 ●投与前・後に血圧測定 BP180/120を超える場合は主治医へ報告  
 ●ペバシズマブ検査セット(●血液算定●T-Bil●GOT●GPT●ALP●ALB●Scr●CRP●尿蛋白測定  
 ●PT-INR●APTT●フィブリノーゲン●D-ダイマー)  
 【3. 投与可能条件】 ●WBC3000以上(好中球1500以上)●HGB9g以上●PLT100000以上●T-Bil施設の基準値1.5倍以下  
 ●GOT/GPT/ALP基準値の2.5倍以下(肝転移を有する場合は5倍以下)●血清クレアチニン値基準値の1.5倍以下  
 ●水様性下痢を認めない●感染を疑わせる38℃以上の発熱が無い ●グレードⅡ以上の非血液毒性(食欲不振を除く)を認めない

202201改訂

月日	指示	指示医	受け	監査	払い	払監	調製	調監	前確	実施
	①②③④⑤⑥⑦⑧	DAY1								

ペバシズマブ投与 リスク患者:  
 1)消化管など腹腔内の炎症を合併(消化管穿孔のおそれ) 2)大きな手術の術創が治癒していない(創傷治癒遅延による合併症)  
 3)先天性出血素因、凝固系異常のある患者(出血のおそれ) 4)抗凝固剤投与中の患者(出血のおそれ)  
 5)血栓塞栓既往患者(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症のおそれ)  
 6)高血圧患者(悪化のおそれ) 7)高齢者(重大な副作用が現れやすい) 8)妊婦、授乳婦(動物実験で催奇形性、授乳中に移行)